

【質問1】

皆さんは「若年離職率」(じゃくねんりしょくりつ)という言葉を知っていますか。

学校卒業後、最初につとめた仕事を、3年以内に辞(や)めた人の割合です。

調査によると中卒では約7割、高卒では約5割、大卒では約3割の人が3年以内に仕事を辞めています。

そのことから、「七五三問題」と言われ、社会問題の一つとされています。

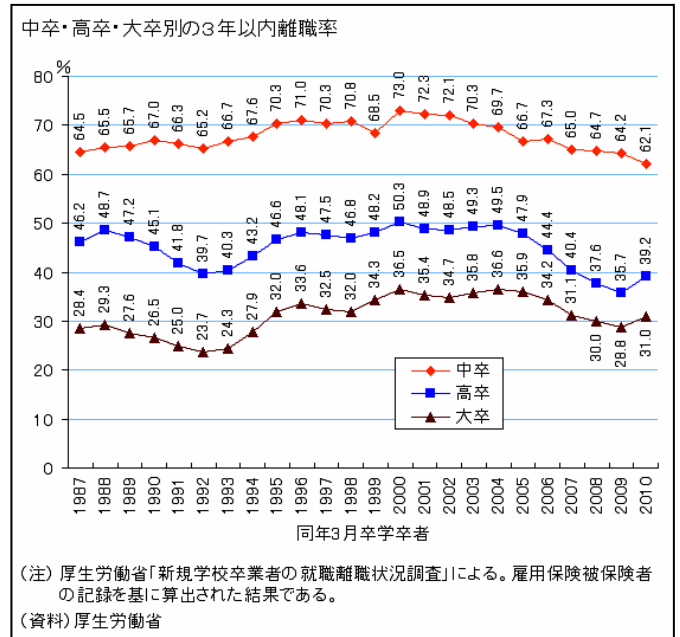
早期に離職してしまった若者が、

「ニート」 (学校にも仕事にも職業訓練にも行かない若年無業者)

「引きこもり」(無職の未婚者で、家族以外の人との交流をほとんどしない人など)

になってしまう場合もあります。そのため、若年離職を少しでも解消するため、国や企業も取組を進めています。

それでは、「職場体験学習」などを振り返って考えてみてください。



みなさんは「仕事を続けていくために大切なもの」とはなんだと思いますか。

大切だと考えるものを、1～3つ考えてみましょう。

仕事につく前(中学・高校時代も含めて)に、大切だと思うことでもかまいません。

○

○

○

## 『かずしの一志の弁当』

「ピピッ、ピピッ、ピピッ。」一志の一日はこの目覚まし時計の音から始まる。午前6時、それは一志が毎朝、起床する時刻だ。それから急いで支度し出勤する。会社に着くと、すぐに白衣に着替え、消毒して仕事場に入る。一志の会社では、コンビニエンスストアやスーパーマーケット向けの弁当を作っている。県内を中心に多くの町へ弁当を届ける。衛生管理の行き届いた工場は、1年365日24時間、休むことなく働き続けている。この工場だけでパートを含めて従業員は約300人。それぞれ一人一人の担当があり、会社というチームでたくさんの弁当を作っていくのだ。一見、機械化されたオートメーション工場のようなのだが、実際には一つ一つ手作りの食品が弁当につめられていく。外国製の冷凍食品などは一つもない。ある意味、家庭料理よりも「手作り」なのである。

この春、入社したばかりの一志の担当は、弁当の中にポテトサラダなどの惣菜（そうざい）をつめる作業である。何千という数の弁当を作るため、台の上を作りかけの弁当が次々と運ばれてくる。一志はプラスチック容器の決められた場所に、決められた分量だけポテトサラダをのせていく。上司からの指示に従って、作業内容を変えたり、他のラインを手伝ったりしながら、同じような作業を繰り返していく。作業チームの一員として自分に与えられた役割を果たさなければ仕事にはならない。このような作業を、立ったまま、毎日、毎日繰り返す。それが、現在の一志の仕事である。

一志はこの春、地元の高校を卒業した。一志の「夢」は調理師になって自分の店を持つことであった。しかし、長引く不景気でどこの料理店も調理師見習いなど雇ってくれるところはなかった。だからといって調理師の専門学校に通うほどの金銭的な余裕もない。一志は「調理の仕事がしたい」という一心で、この弁当会社に就職したのであった。

しかし、弁当を作る会社であっても、一志に与えられた今の仕事は、調理ではなかったのだ。仕事を始めて1ヶ月もしないうちにこの仕事が嫌になった。やりたかった調理はできないし、毎日が同じ作業の繰り返し…。一志は誰かに相談したくて、同級生のFに電話した。Fはこの春、夢だった自動車のゴム製品をつくる会社に就職していた。だが、Fから返ってきた言葉は意外なものだった。彼も「単純作業の繰り返し」や「夢と現実とのギャップ」に不満を口にしたのだ。一志は今の会社に勤め続けるかどうか、真剣に悩みはじめた。

一志は体調不良を理由に休むことも増えていった。そんなある日、上司のAさんに呼び出された。

「何か、悩んでいることがあるのなら相談してほしい。」

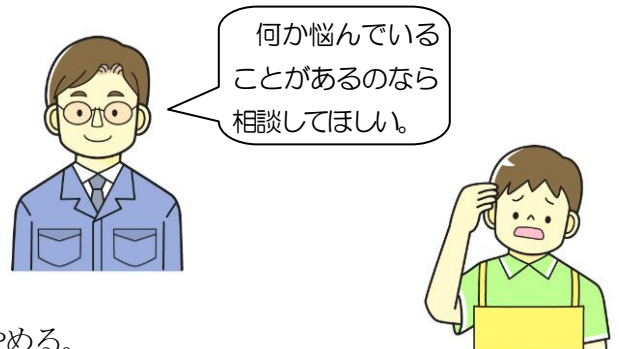
Aさんのその言葉に、一志は、これまでの自分の夢、そして今の仕事への不満などを話した。

「もう、この仕事をやめたいんです…」

Aさんはその言葉に驚く様子もなく、一志を諭（さと）した。

「今の仕事も好きだけど、自分にとってもっと魅力的な仕事が見つかったという事なら応援しよう。しかし、今の仕事が嫌でやめるのだったらもう一度よく考えた方がいい。1年は続けてみたまえ。」

「1年間」、それは一志にとって気の遠くなるような月日である。一志は、次の仕事が見つかるまでと思いつきながら、もう少し続けることにした。



### 【質問2】

あなたが一志ならどうしますか。

- ア 自分には向いていない仕事だと分かった時点でやめる。
- イ 一志と同じように、上司のアドバイスを聞き、もう少しこの仕事を続ける。
- ウ 覚悟を決め、自分の一生の仕事にする気で頑張ってみる。

月日は過ぎ、やがて12月になった。仕事を覚えるために、これまでいくつかの部署も経験させてもらった。そして、年の瀬も迫り、一志にとって初めての忘年会でのことである。

「今年も1年間、1件の食中毒も出さないでやってくることができました。合成着色料や保存料はできるだけ使用せず、『おいしくて安心して食べられる手作り弁当』という評判も頂きました。注文して下さるお客さんも少しずつ増え、売り上げも伸びています。皆さんがお弁当一つ一つに心をこめて、そして衛生面にもしっかり気をつけてがんばってくれたおかげです。本当に感謝しています。お客さんと従業員の笑顔を見るのが大好きな私にとって、素晴らしい1年でした。」

社長の言葉と従業員の笑顔、その一人一人の顔は満足感に満ちている。「お客様と地域、社員と家族、みんなが幸せに。」という思いが職場を一つにしていることも分かった。

そして上司のAさんは話してくれた。

「苦労もあるけど、いろんな町で、うちの会社の弁当を見つけると嬉しくなるんだよ。」

一志は、①「仕事の喜び」とは何であるかが少し分かったような気がした。

そして、お弁当を食べている②お客さんの笑顔を思い浮かべながら、もう1年、この職場でがんばってみようと思った。

- (1) 「一志は、①『仕事の喜び』とは何であるかが少し分かったような気がした。」とあります。皆さんは、『仕事の喜び』とは何だと思えますか。  
(できるだけ複数考えてください。資料にはないことも想像してみましょう。)

「仕事の喜び」とは、

---

「仕事の喜び」とは、

---

「仕事の喜び」とは、

---

- (2) 一志は、「②お客さんの笑顔を思い浮かべながら」もう一年がんばってみようと思意しています。それでは、「一志が仕事を続けよう」と考えた経験も参考にして、  
「仕事を続けていくために大切なもの」を考えましょう。複数でもかまいません。

**仕事を続けていくために大切なもの**は、

その理由は、

(班での説明に使うキーワードを考えましょう)

- 班に帰って ①上の四角内（もう1年頑張ってみようと思った理由）を簡単に説明。  
②エキスパート班のみんなで作った「仕事の喜び」とは。（複数可）  
③あなたが考えた「仕事を続けていくために大切なもの」を班員に伝えてください。（複数可）

2年目に入り後輩が入社してきた。新鮮な思いで仕事を始めた新入社員だったが、中には3カ月もしないうちにやめてしまう人もいた。一志にはその気持ちがよく分かった。

ある日、後輩の一人が話しかけてきた。

「先輩はなんでこの仕事についてのですか。やめたくなくなった事はありませんか。」

その問いに答えようとして、一志はこの1年間を振り返った。そして後輩を励ますために、自分を勇気づけるために、正直な気持ちを話してみた。

「本当は調理師になるのが夢だったんだ。でもそれは難しく、この会社にお世話になることにしたんだよ。正直に言うと、やめたくなくなった事もある。でも、次のあてもないのにこの会社をやめてしまえば、ずっと仕事から逃げ続けてしまう気がして…。もう少し…、もう少し…、と思って頑張ってきた。①今は、それで良かった」と思っている。仕事の大切さも少しだけ分かった気がするんだ。」

後輩は、一志の目をじっと見て、「そうですか」とだけつぶやいた。

月日が過ぎて、一志が弁当会社に就職して3年目を迎えた。立ったままの作業に弱音（よわね）をはいたこともあった。だが、よく考えてみると、自分の夢だった調理師も立ち仕事である。何時間も立ち続けている仕事はいくらでもある。②同じことの繰り返しに思えた作業も、それが当たり前だと感じるようになってきた。世の中にはいろいろな仕事があるが、多くの職場でみんな同じような作業を繰り返している。来る日も、来る日も。それが仕事というものだ。

「楽しい仕事。やりがいのある仕事。希望に満ちた仕事。」

学生時代は、漠然（ぼくぜん）とそんな夢を見ていた。しかし、現実には甘くない。仕事の厳しさも身にしみて分かった。③「辛抱（しんぼう）も必要ではないか」と思うようになった。それを乗り越えなければ、いくら「夢や希望」を語っても仕方ない。中学、高校と6年間続けた野球も、厳しい練習に耐えてはじめて、一勝という「目標」が達成できたのだ。

- (1) 一志は、「①（仕事を続けてきて）今は、それで良かった」と感じています。続けてきて良かったと思えた理由は何なのでしょう。（できるだけ複数考えてください。資料にはないことも想像してみてください。）

一志が、仕事を続けてきて良かったと思えた理由は、

---



---



---

- (2) 一志は、最初はきつと感じた仕事にも慣れ、それを乗り越えて、②や③のような思いを抱いています。皆さんも部活動などでそんな経験をしたことはありませんか。一志の体験（①・②・③等）を参考にして、「仕事を続けていくために大切なもの」を考えましょう。複数でもかまいません。

**仕事を続けていくために大切なものは、**

その理由は、

（班での説明に使うキーワードを考えましょう）

- 班に帰って ①上の四角内（2年目から、3年目にかけて一志が体験したこと）を簡単に説明。  
 ②一志が「仕事を続けてきて良かった」と思えた理由。（複数可）  
 ③あなたが考えた「仕事を続けていくために大切なもの」を班員に伝えてください。（複数可）

**エキスパートC (3年目)【この仕事が好き】** 黙読した後 (1) (2) について話し合しましょう。

3年目の秋、一志は上司のAさんから新作弁当づくりに参加するチャンスをもたらされた。行楽シーズンに売り出す弁当のおかずに、自分のアイデアを提案できるのだ。一志はこれまでの経験を生かして、調理方法や色合い、盛りつけだけでなく、栄養、仕入れ先、経費、衛生面など様々な条件を考慮した。気が付くと、献立づくりに夢中になっている自分がいた。

**①この仕事が少しずつ好きになり、楽しさや誇りのようなものを感じ始めていた。**

最終的に、食中毒を起こしにくい「漬け物」をアレンジしたおかずを考えた。

しかし、残念ながら一志の提案は採用されなかった。

結果を聞き、少しがっかりした。だが、その理由を聞く間もなく、すぐに会議室に呼ばれた。一志は不安になった。会議室に入ると、Aさんはおだやかに語り始めた。

「現場で苦労した者のアイデアが活かされていて良かったぞ。これからも積極的にチャレンジしてくれよ。」

意外な言葉だった。次の瞬間、嬉しくて胸が熱くなった。**②自分のことを見てくれている先輩がいる。支えてくれる同僚や後輩もいる。**この会社で自分が成長し、「新しい夢」が生まれてくる気がした。

- (1) 仕事を続けていくためには「辛抱」(しんぼう)が必要な時もあるでしょう。しかし、「辛抱」や「我慢」(がまん)の連続では長続きしないかもしれません。一志のように、「**①この仕事が少しずつ好きになり、楽しさや誇りのようなものを感じた。**」という思いも大切ではないでしょうか。

それでは、最初、「好きではない仕事」について一志が、「この仕事が少しずつ好きになり、楽しさや誇りを感じるようになった」のはなぜでしょうか。

(できるだけ複数考えてください。資料にはないことも想像してみましょう。)

一志が仕事を少しずつ好きになり、楽しさや誇りを感じるようになったのは

---

---

---

- (2) 仕事を続けていく中で、悩んだり、辛(つら)い思いをするときもあるでしょう。皆さんも部活動でそんな体験をしたことはありませんか。そんな時、**②**のように、仲間に支えられていることを感じられるといいですね。それでは、**①・②**のような一志の体験も参考にして、

**「仕事を続けていくために大切なもの」**を考えましょう。

**仕事を続けていくために大切なもの**は、

その理由は、

(班での説明に使うキーワードを考えましょう)

- 班に帰って **①**上の四角内(一志が「新作弁当づくり」で体験したこと)を簡単に説明。  
**②**一志が「仕事を少しずつ好きになり、楽しさや誇りを感じるようになった」理由。(複数可)  
**③**あなたが考えた「仕事を続けていくために大切なもの」を班員に伝えてください。(複数可)

## 【ジグソー資料】

各エキスパートからの発表の後、みんなで考えましょう。

一志は就職してからの3年間で様々な体験をして、自分が成長したと感じています。

それでは、「**仕事を続けていくために大切なもの**」とは何だと思いますか。ジグソーグループで話し合っ、一番大切だと感じるものから順に書いてください。

そして、**選んだ理由**を考えましょう。**なぜ二番目・三番目より、一番目は大切**なのでしょうか。また、選んだ3つのものには、どんな**関連**があるのでしょうか。

	1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班	8班
① 一番大切								
②								
③								

①を選んだ理由は、

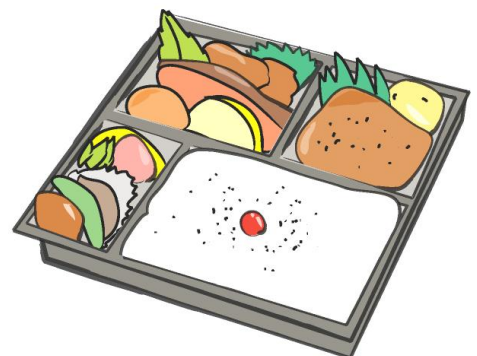
.....  
.....  
.....

②を選んだ理由は、

.....  
.....

③を選んだ理由は、

.....  
.....



## 『彩り』

【質問】「Mr.children」の『彩り』という曲を知っていますか。

- ア 知らない
- イ 少し知っている (聞いたことがある)
- ウ よく知っている (カラオケでも歌える)

作詩・作曲 KAZUTOSHI SAKURAI

Mr.children 公式サイト <http://www.mrchildren.jp/>

出典音楽情報サイト <http://www.barks.jp/>

[歌詞は省略]

【問1】 今日「働く」ことの意味を考えました。みんなで話し合っ、仕事に対する考えは深まったでしょうか。

それでは「**仕事を続けていくために大切なもの**」をもう一度考えてみましょう。

○

○

○

【問2】 あてはまる番号の枠全体を黒く(■)塗りつぶしてください。

1	学校の授業全体のうち、このような進め方の授業(グループでの話し合いを中心にした授業)をどのくらいやりたいですか	とてもやりたい(毎日1時間くらい、あるいはそれ以上)	5
		結構やりたい(週に1, 2回くらい)	4
		時にはやってもよい(月に1, 2回くらい)	3
		たまにはやってもよい(学期に1, 2回くらい)	2
		やりたくない	1



【問1】 今日「働く」ことの意味を考えました。職場体験学習でも学んだように、多くの大人が、それぞれの職場で黙々と仕事をされています。必ずしも、それは夢だった仕事ではないかもしれませんが、しかし、家族を支え、お客さんに喜ばれ、地域に役立つことを願って、誇りを持って仕事をされています。「自分が、家族やまわりの人の役に立っている」と感じられることは、仕事の素晴らしさの一つです。そして、「自分の仕事が好き」になり「人の笑顔に喜びを感じる」ことができれば、ほんとうに豊かな人生を歩むことができるでしょう。皆さんの感じたこと、考えたことを書いてください。

5										
10										

【問2】 あてはまる番号の枠全体を黒く(■)塗りつぶしてください。

- 5→ とても そう思う
- 4→ まあまあ そう思う
- 3→ どちらでもない
- 2→ あまり 思わない
- 1→ ぜんぜん 思わない



資料を読んだり、友だちや先生の話聞いて、自分の考えを深めることができた。(考えを深めるとは、共感したり、新しい考えに気づいたりすることです。)	5
	4
1	3
	2
	1
今日の授業で学んだことは、	5
2	4
これから生きていく中で、大切にしたいことだと感じた。	3
	2
	1
今日の道徳の時間は良かった。	5
3	4
(良かったとは、考えさせられたり、感動したり、楽しかった授業を言います。)	3
	2
	1